

佳作

## ペットと環境

六本木中学校 日比 海洗

一カ月前に、僕が新しく引越した家の周りには、たくさんノラ猫が住みついています。毎日学校への行き帰りに、餌をねだったり、車の下で涼んだりしているのをよく見かけます。もうすでに十匹以上は発見しました。

どうしてこんなに増えてしまったのでしょうか。そんなにたくさん、猫を捨てる人がいたのでしょうか。その猫たちを捨てた人は、ペットを捨てることは、そのペットを裏切るだけでなく、周りの環境も変えてしまうことに気付いていたのでしょうか。例えば、僕の家周りでは、ノラ猫の便所らしき所があつて、一部悪臭が漂っています。

猫ならたいしたことはありませんが、魚などを捨てると、放された種が繁殖し、時にはかなり大きな問題になります。特に、もともと生息しないはずの外来種は、在来種を食べつくし、絶滅に追いやることもあります。

あの多摩川には、「タマゾン川」と呼ばれることがあるほど、様々な種の魚たちが繁殖しています。捨てられたペットが環境に適応し、在来種を上回るほど増加したからです。昔、この川には、たくさん釣りが訪れ、食用魚を獲っていました。今は捨てられた外来種の影響でめっきり数

が減っています。

似たような現象が、川だけではなく海でも起こっています。日本の沖合ではある強い外来種の貝が繁殖して、弱い外来種の貝を減少させています。ハマグリ、アサリや、寿司によく使われる貝の漁業で生活していた人々は大きな打撃を受け、苦しい生活を強いられている人がたくさんいます。

では、どうすればこういうことを防げるのでしょうか。単にペットを捨てなければいいわけですが、やはり飼っているうちに大きく育ててしまったり、世話をするのが面倒くさくなったりして、やむをえず捨ててしまうかもしれません。

それならばもっと事前に、ペットを買う前に対処できると思います。まず、ペットを買う前に、本当にそのペットが欲しいのか、よく考えるべきです。そもそもなぜ自分はそのペットが欲しいのか、そのペットを飼ってどうしたいのか、それを飼うにはどのくらいの世話が必要で、自分はそれをやりとげる確かな自信があるのか、よく考え直すべきです。

「ただなんとなく欲しいから」とか、中途半端な気持ちで買うと、後々愛想が尽きて、ペットを捨ててしまいかねません。充分考えたのちに、本当にそのペットが欲しくて、世話もする自信があつて飼うことを決めたペットなら、手放すことはないでしょう。

今、日本では、捨てられたペットによって外来種の繁殖

が進み、在来種に多大な被害を及ぼしています。さらに、この侵略者たちは地球温暖化の影響で、これからさらに数が増えることが予想されています。そうなれば、在来種への影響はさらに大きくなり、やがて絶滅してしまうかもしれません。被害を少しでも減らすために、わたしたちはペットを捨てないよう努力しなければなりません。